

白銅株式会社(7637)

2026年3月期 決算説明資料

2026年5月13日

目次

1. 2026年3月期 決算内容 P.2
2. 2027年3月期 業績予想 P.17
3. 中期経営計画達成に向けた取り組みと進捗状況 P.20

1. 2026年3月期 決算内容

決算ハイライト

売上高

68,109百万円
(前連結会計年度比+2.6%)

売上総利益

10,609百万円
(前連結会計年度比+0.3%)

経常利益

3,190百万円
(前連結会計年度比△0.8%)

2026年3月期サマリ

<売上高>

原材料市況上昇の影響による商品単価の上昇、および半導体製造装置業界における当連結会計年度後半の需要回復等により、前連結会計年度比2.6%増収。海外においては、中国、タイは前連結会計年度比で売上高が増加。一方、北米においては前連結会計年度比で売上高が減少。

<売上総利益>

工場の新設、増床に伴う支払地代家賃の増加等により売上原価は上昇したものの、売上高の増加等により前連結会計年度比で0.3%増益。

<経常利益>

運賃単価の上昇、広告宣伝の強化、および、従業員のオフィス環境整備を目的とした本社事務所の増床等により販管費が増加し、前連結会計年度比で0.8%減益。

連結損益計算書（PL）サマリ

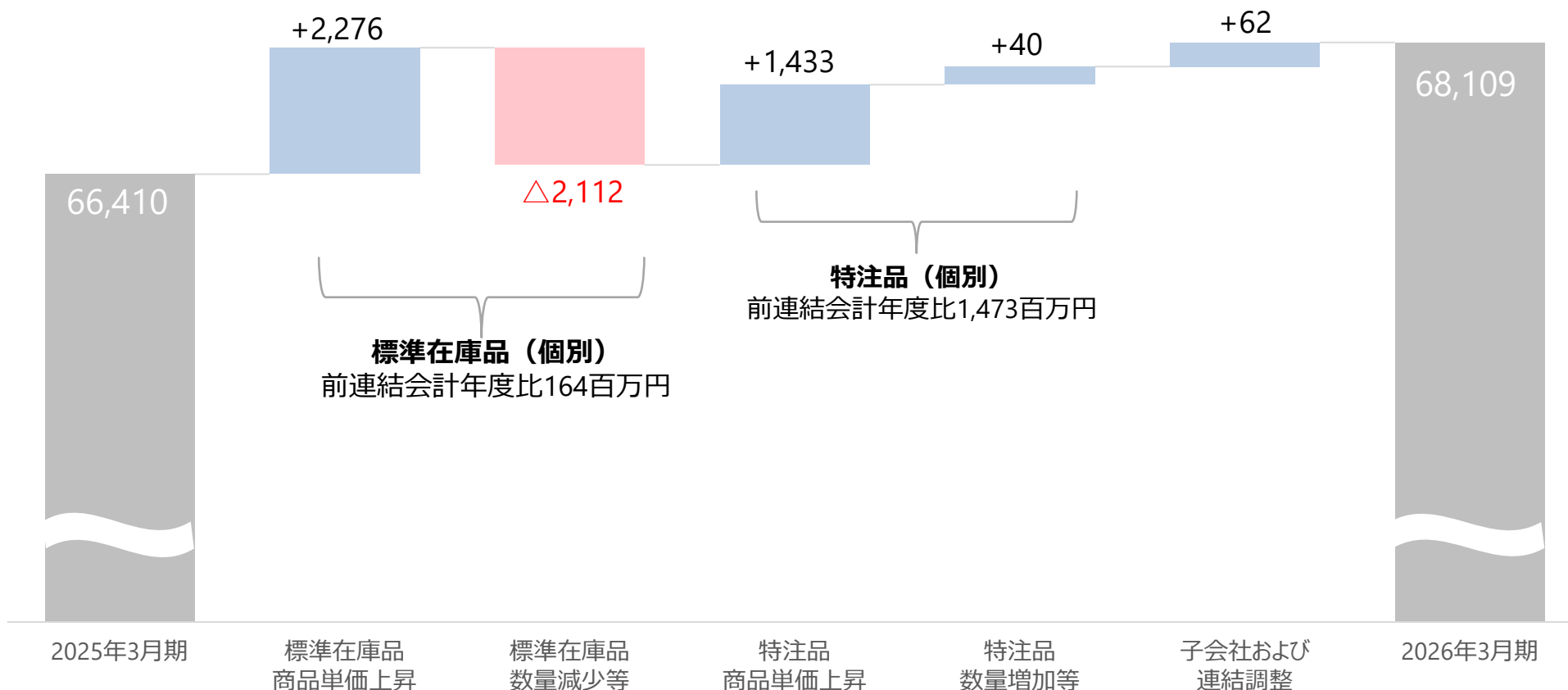
（単位：百万円）

	2025年3月期	売上高 比率	2026年3月期	売上高 比率	増減率	増減額
売上高	66,410	-	68,109	-	+2.6%	+1,699
標準在庫品	38,964	58.7%	39,046	57.3%	+0.2%	+81
特注品	27,445	41.3%	29,063	42.7%	+5.9%	+1,617
売上総利益	10,573	15.9%	10,609	15.6%	+0.3%	+36
営業利益	2,983	4.5%	2,872	4.2%	△3.7%	△111
経常利益	3,214	4.8%	3,190	4.7%	△0.8%	△24
棚卸資産影響額 (△は損)	378	0.6%	411	0.6%	+8.6%	+32
経常利益 (棚卸資産影響額を除く)	2,836	4.3%	2,778	4.1%	△2.0%	△57
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,236	3.4%	2,146	3.2%	△4.1%	△90

売上高の前連結会計年度比差異要因

- 原材料市況の上昇の影響により商品単価が上昇し、標準在庫品および特注品の売上高が増加。
- 特注品においては、特に航空・宇宙業界向けの売上高が前連結会計年度比で増加し、増収に寄与。

(単位：百万円)



前連結会計年度比 白銅個別標準在庫品 販売重量：△5.5% 商品単価：6.2%

品種別売上高

- アルミニウムと伸銅は原材料価格の高騰により商品単価が上昇し、対前連結会計年度比で増収。
- ステンレス、その他（特殊鋼・チタン・プラスチック等）については、ほぼ横ばいに推移。

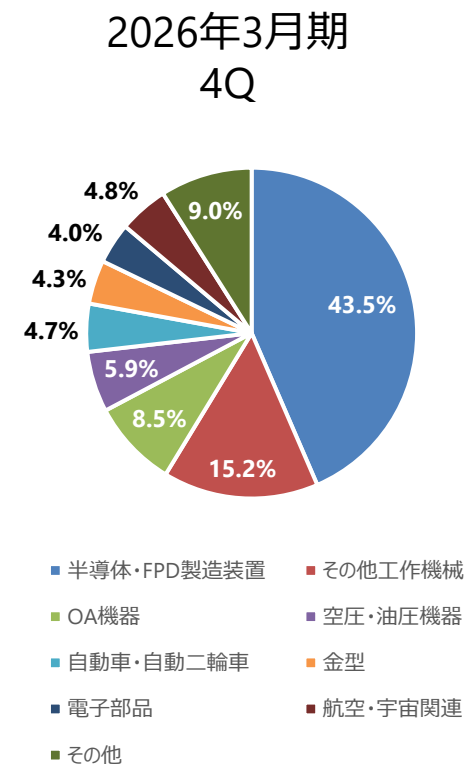
(単位：百万円)

	2025年 3月期				計	2026年 3月期				計	前連結 会計 年度比
	1Q	2Q	3Q	4Q		1Q	2Q	3Q	4Q		
連結売上高	15,745	16,742	17,665	16,256	66,410	17,059	15,640	16,981	18,428	68,109	+2.6%
アルミニウム	9,363	10,449	10,984	10,017	40,814	10,455	9,514	10,304	11,559	41,833	+2.5%
伸銅	2,442	2,312	2,425	2,321	9,502	2,345	2,302	2,602	3,010	10,261	+8.0%
ステンレス	3,061	3,122	3,347	3,073	12,604	3,317	2,975	3,158	3,082	12,535	△0.5%
その他	878	857	908	843	3,488	939	848	915	776	3,479	△0.3%

業界別売上高構成比率（国内）

- 半導体・FPD製造装置業界向けの売上高構成比率は生成AIやデータセンター関連需要を背景に2026年3月期2Q以降で上昇傾向。
- 航空・宇宙関連業界は売上高構成比率は減少したものの、官需向けを中心に好調に推移し、売上高は増加。

	2025年3月期				2026年3月期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
半導体・FPD製造装置	37.3%	42.2%	43.0%	39.4%	36.9%	38.2%	39.6%	43.5%
その他工作機械	17.8%	15.6%	14.9%	15.8%	15.9%	15.5%	15.3%	15.2%
OA機器	10.3%	9.4%	8.7%	9.3%	9.8%	9.8%	8.5%	8.5%
空圧・油圧機器	5.9%	5.5%	5.8%	5.3%	6.4%	6.3%	7.0%	5.9%
自動車・自動二輪車	5.1%	5.1%	5.6%	5.7%	5.5%	4.9%	5.0%	4.7%
金型	5.4%	5.3%	5.2%	4.8%	5.4%	5.1%	5.3%	4.3%
電子部品	4.0%	3.8%	3.8%	4.3%	4.1%	4.0%	4.2%	4.0%
航空・宇宙関連	4.3%	4.3%	4.3%	5.2%	6.2%	5.7%	5.0%	4.8%
その他	9.9%	8.8%	8.7%	10.2%	9.8%	10.5%	10.1%	9.0%



セグメント別業績

- 北米セグメントは、6月に100%子会社となったWCASが黒字に転換し、HakudoUSAを含むセグメント損失が縮小。
- 中国は、売上高の増加に伴い、利益が改善。
- その他セグメント（タイ）においては、データセンター・AI関連投資の増加、主力商品の開拓などにより伸銅、アルミの売上高が増加。

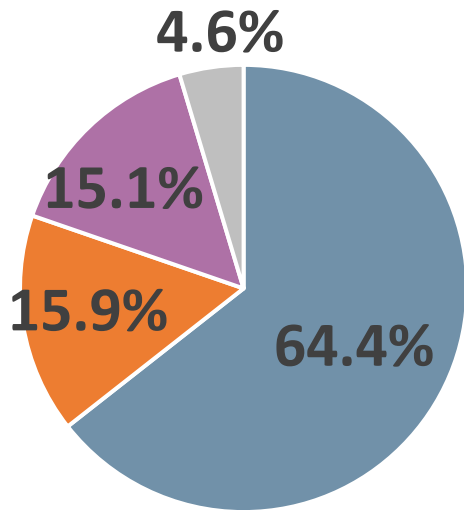
(単位：百万円)

セグメント	2025年 3月期				2026年 3月期			
	売上高	営業損益	経常損益	親会社株主に 帰属する 当期純損益	売上高	営業損益	経常損益	親会社株主に 帰属する 当期純損益
日本	57,910	3,129	3,233	2,275	59,371	2,812	3,088	2,083
北米	5,099	△285	△184	△179	5,087	△97	△84	△86
中国	1,753	△13	13	16	1,926	△0	28	22
その他	1,647	153	152	124	1,723	157	157	126

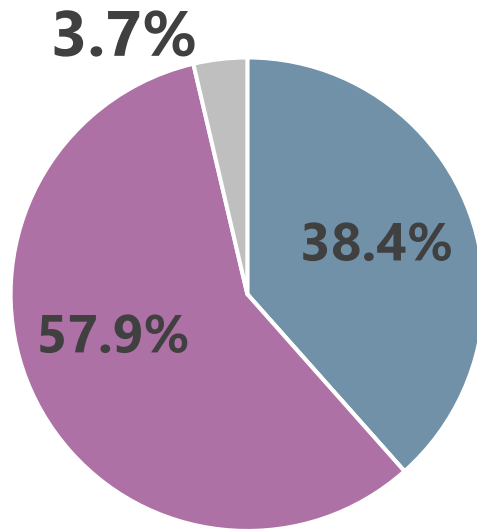
2026年3月期 セグメント別 品種別売上高比率

- 【日本】半導体製造装置業界向けの販売比率が大きい影響でアルミニウムが大きな比率を占める。伸銅・ステンレスの売上高比率は同等となっている。
- 【北米】輸送機器関連、および住宅関連をメインの販売業界としているため、ステンレスの比率が大きい。
- 【中国】半導体製造装置業界向けの販売がメインとなるためアルミニウム比率が高い。一方で、金型・自動車業界向けの特殊鋼含むその他品種の比率が日本より大きくなっている。
- 【その他(タイ)】金型・自動車業界向けの伸銅が大きな比率を占めている。

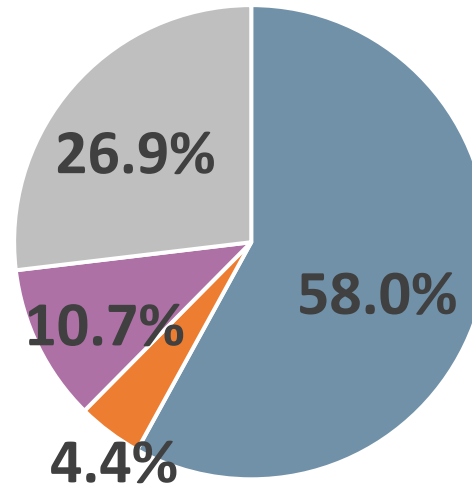
【日本】



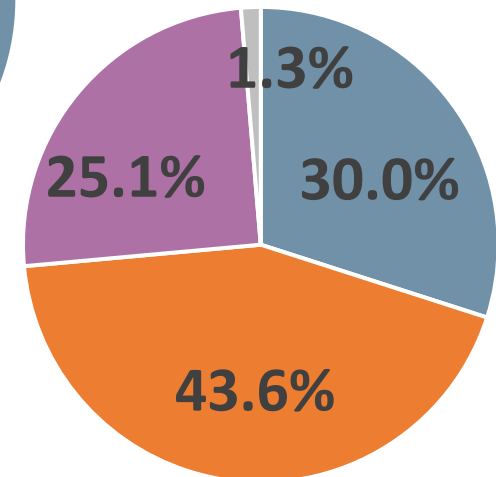
【北米】



【中国】



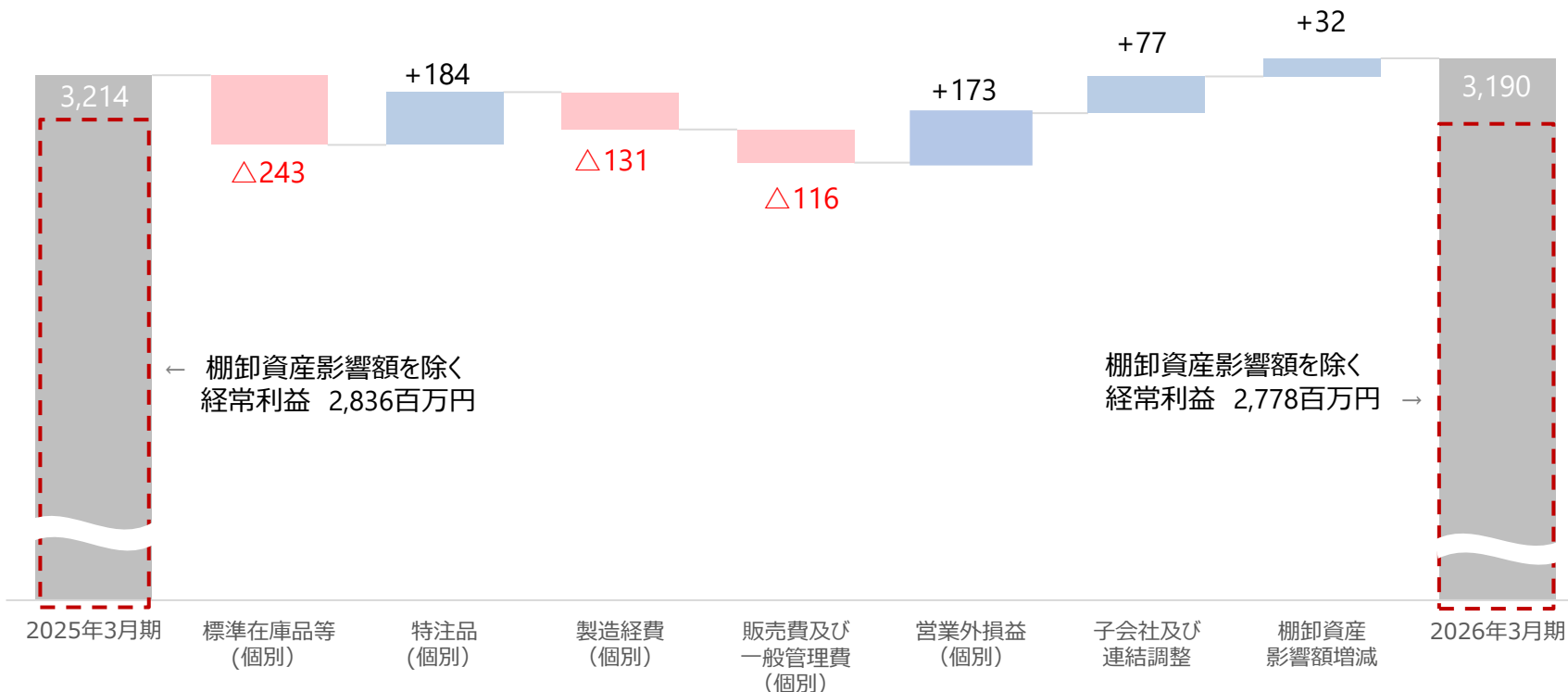
【その他(タイ)】



経常利益の前連結会計年度比差異要因

- 白銅個別の標準在庫品は販売量減少により、利益が減少。一方で特注品は売上高増加等により利益も増加。
- 運賃単価の上昇、広告宣伝の強化、および、従業員のオフィス環境の整備を目的とした本社事務所の増床等により、販売費及び一般管理費は増加。
- 営業外損益については受取配当金等が増加。

(単位：百万円)



連結貸借対照表 (BS)

(単位：百万円)

資産の部	2025年3月末	構成比率	2026年3月末	構成比率	増減
流動資産	35,028	78.3%	36,925	77.6%	+1,896
現金及び預金	5,473	12.2%	7,670	16.1%	+2,196
受取手形及び売掛金 (含 電子記録債権)	16,833	37.6%	16,475	34.6%	△358
棚卸資産	12,522	28.0%	12,531	26.3%	+9
その他流動資産	199	0.4%	248	0.5%	+48
固定資産	9,716	21.7%	10,638	22.4%	+922
有形固定資産	6,404	14.3%	6,518	13.7%	+113
無形固定資産	1,470	3.3%	1,346	2.8%	△123
投資その他の資産	1,841	4.1%	2,774	5.8%	+932
資産合計	44,745	100.0%	47,564	100.0%	+2,819
負債及び純資産の部	2025年3月末	構成比率	2026年3月末	構成比率	増減
流動負債	20,919	46.8%	21,959	46.2%	+1,039
買掛金 (含 電子記録債務)	18,598	41.6%	18,988	39.9%	+389
未払金・未払費用	888	2.0%	1,004	2.1%	+115
未払法人税等	547	1.2%	656	1.4%	+109
その他流動負債	885	2.0%	1,310	2.8%	+425
固定負債	70	0.2%	139	0.3%	+68
負債合計	20,990	46.9%	22,098	46.5%	+1,108
純資産	23,755	53.1%	25,465	53.5%	+1,710
負債純資産合計	44,745	100.0%	47,564	100.0%	+2,819

流動資産 +1,896百万円

➤ 回収条件の短縮に伴う現金及び預金の増加 (+2,196百万円)

固定資産 +922百万円

➤ 工場の新設等設備投資による有形固定資産の増加 (+113百万円)
 ➤ 米国パトリオットメタルズ社への出資および投資有価証券の増加

流動負債 +1,039百万円

➤ 原材料市況上昇等の影響による買掛金 (含電子記録債務) の増加 (+389百万円)

固定負債 +68百万円

純資産 +1,710百万円

連結キャッシュ・フロー（CS）

- 営業活動によるキャッシュ・フローは、運転資本の改善により、4,493百万円となった。
- 投資活動によるキャッシュ・フローは、工場の新設など国内における設備投資・IT投資などの実施、および海外出資先の株式追加取得等により、△1,373百万円となった。
- 財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払い等により△1,054百万円となった。

（単位：百万円）

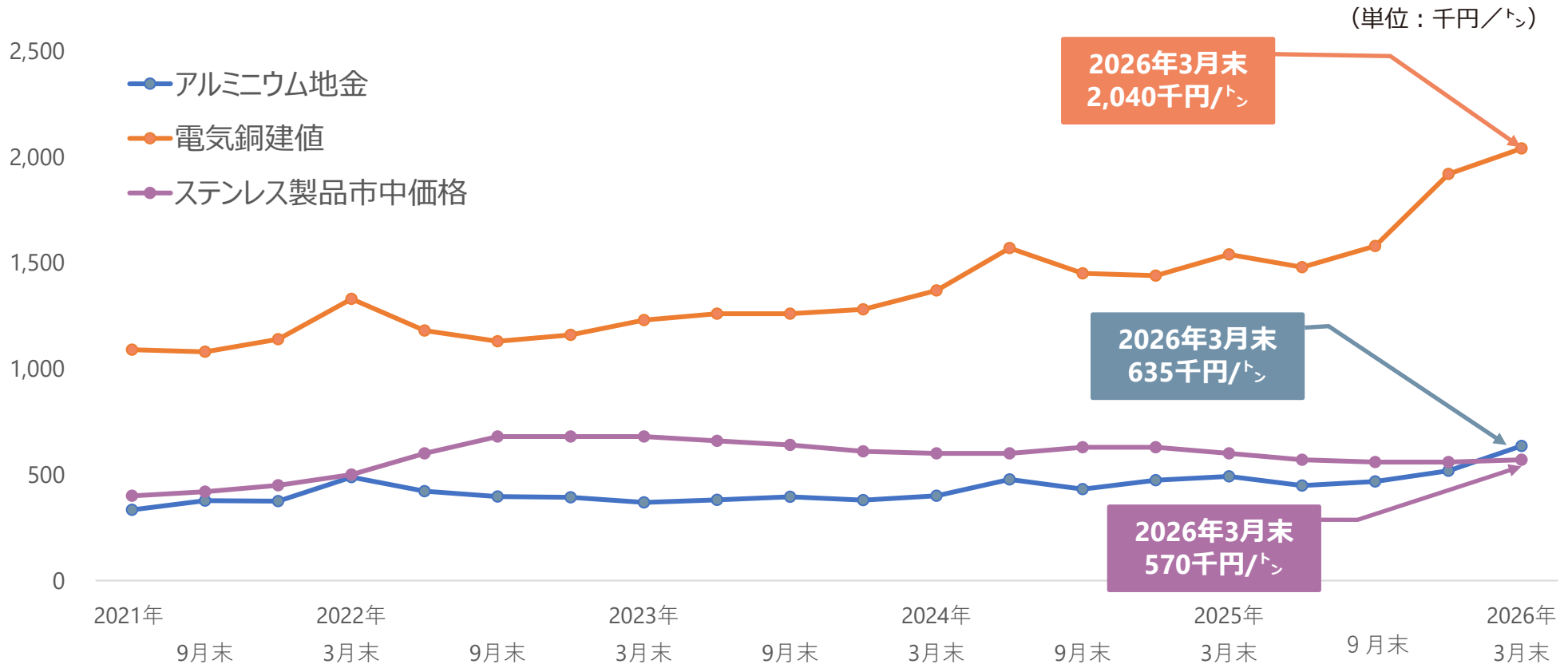
<主な内訳>

	2025年3月期	2026年3月期
営業活動による キャッシュ・フロー	1,782	4,493
投資活動による キャッシュ・フロー	△893	△1,373
財務活動による キャッシュ・フロー	△1,127	△1,054
現金及び現金同等物に係る 換算差額	11	130
現金及び現金同等物の 期末残高	5,473	7,670

- ①営業活動によるキャッシュ・フロー 4,493百万円
- ・税金等調整前当期純利益 : 3,190百万円
 - ・減価償却費 : 1,114百万円
 - ・のれん償却 : 44百万円
 - ・売上債権の増減額（△は増加） : 431百万円
 - ・棚卸資産の増減額（△は増加） : 89百万円
 - ・仕入債務の増減額（△は減少） : 348百万円
 - ・法人税等の支払額 : △989百万円
- ②投資活動によるキャッシュ・フロー △1,373百万円
- ・有形固定資産の取得に伴う支出 : △788百万円
 - ・無形固定資産の取得に伴う支出 : △101百万円
 - ・投資有価証券の取得に伴う支出 : △143百万円
- ③財務活動によるキャッシュ・フロー △1,054百万円
- ・配当金支払額 : △771百万円

事業環境（1） アルミニウム・銅・ステンレスの原材料市況

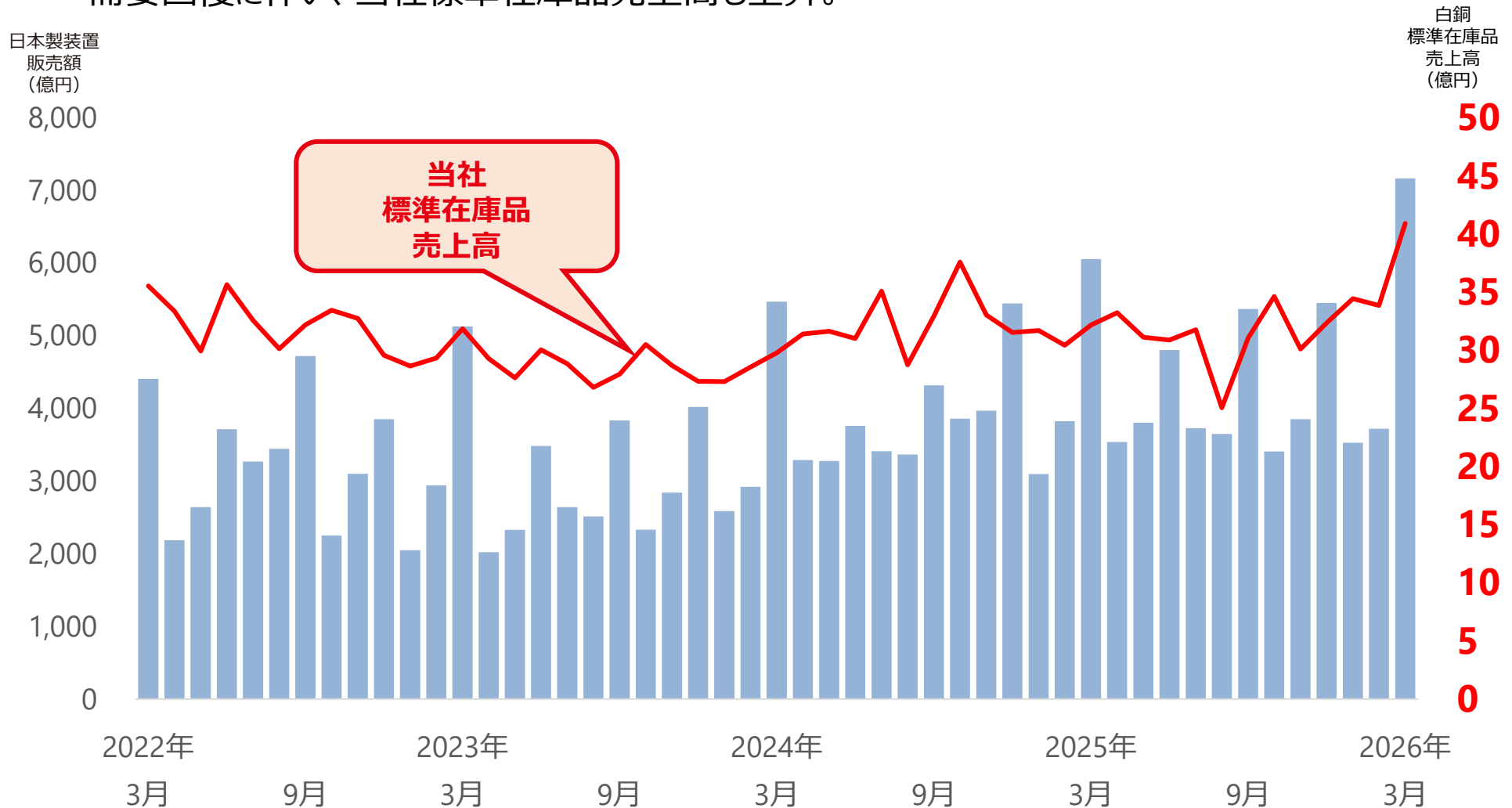
- 銅の主要産地の供給懸念などを背景に、電気銅建値が大幅に上昇。
- アルミニウム地金は2025年6月以降で上昇傾向。
- ステンレス製品市中価格は、引き続き横ばいに推移。



電気銅建値：JX金属による算出 ステンレス鋼板：鉄鋼新聞月別中心値
 アルミニウム地金：日本経済新聞月別平均値

事業環境（2）半導体製造装置販売額と標準在庫品売上高との比較

- 国内の半導体製造装置需要は当連結会計年度後半から回復傾向。
- 需要回復に伴い、当社標準在庫品売上高も上昇。

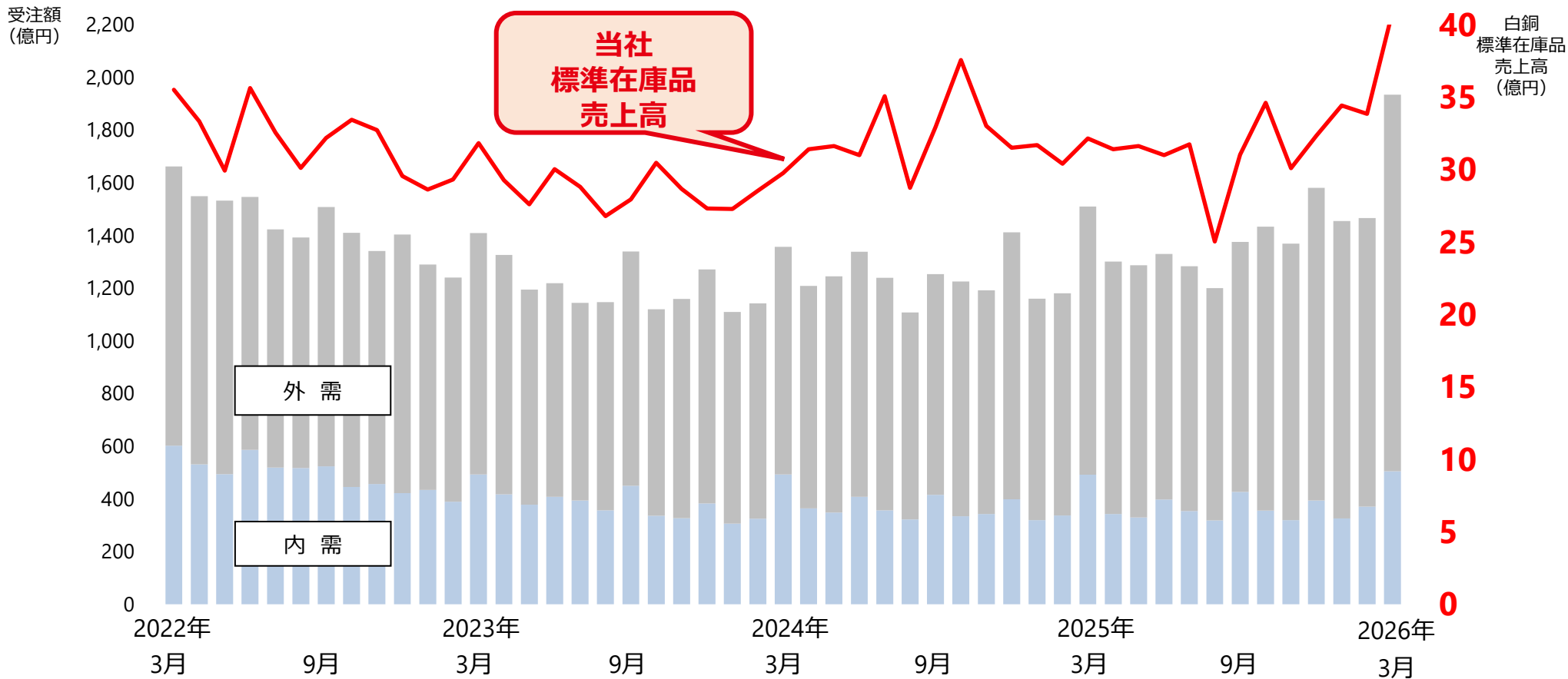


出典：日本半導体製造装置協会 統計データ

2026 © Hakudo Co., Ltd. All rights reserved.

事業環境 (3) 工作機械受注額と標準在庫品売上高との比較

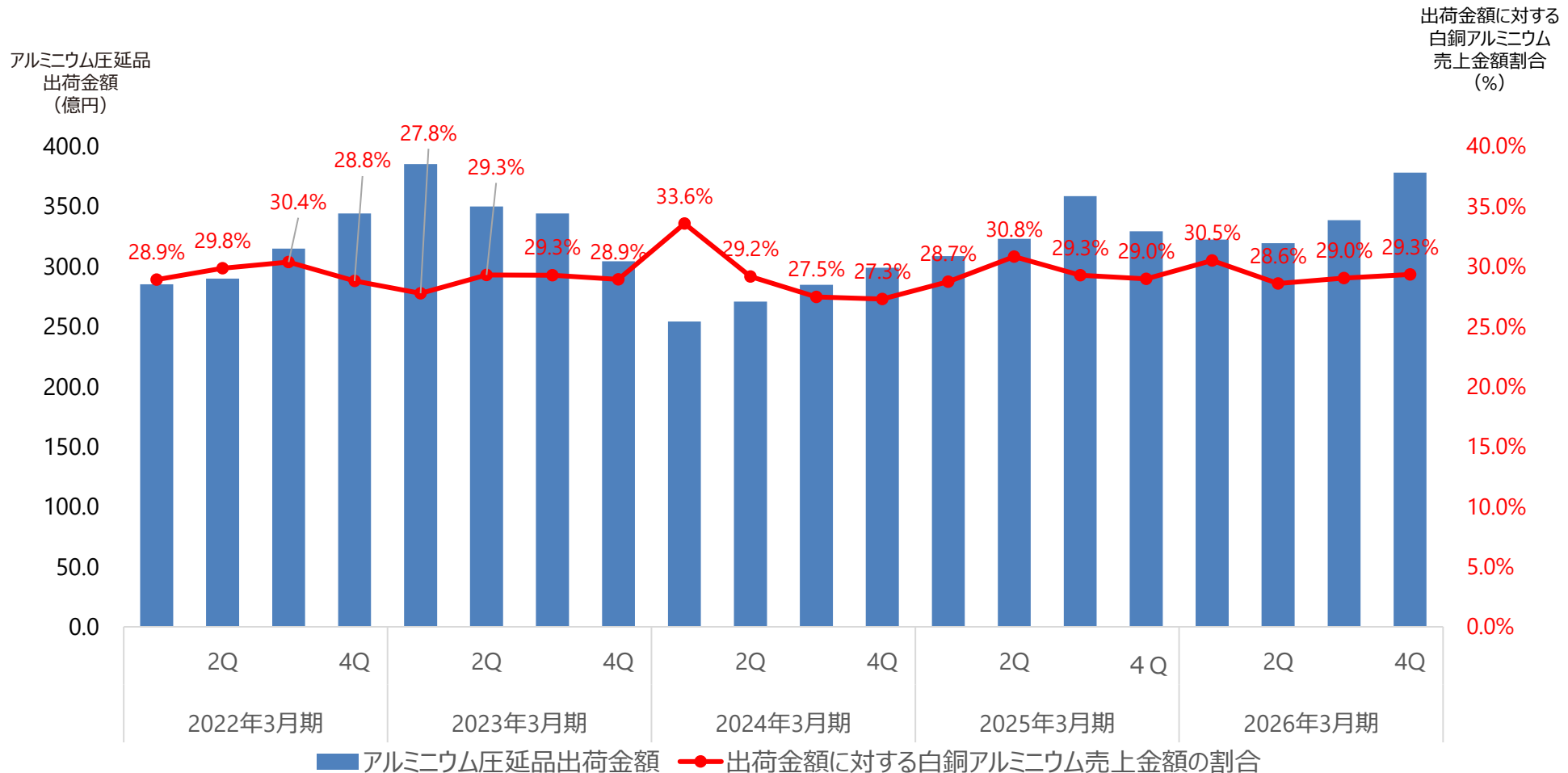
- 工作機械業界は、自動車、データセンター、スマートフォン向けなどの需要増加に伴い、外需の受注額が増加。内需も半導体製造装置業界の需要回復により増加した。
- 受注額は前年4Q期間(1~3月)比で内需4.7%減少、外需35.2%増加。



出典：日本工作機械工業会 工作機械統計

事業環境 (4) アルミ圧延品出荷金額と出荷金額に対する当社アルミニウム製品売上割合

- アルミ圧延品出荷金額に対する当社アルミニウム製品売上割合は、引き続き30%前後で推移。



※ アルミニウム圧延品出荷金額は、板材(6.0mm以上)・円板・管・棒の合計

出典：一般社団法人 アルミニウム協会 アルミニウム圧延品統計月報より

2. 2027年3月期 業績予想

2027年3月期 業績予想

- 前連結会計年度後半から回復傾向にある半導体製造装置業界の好調継続を見込む
- 中東情勢の影響については現状自社で顕在化している影響のみを数値に算入、現時点では影響は限定的との見込み

(単位：百万円)

	2026年3月期 中間期	2026年3月期 実績	2027年 3月期 中間期予想	2027年 3月期 通期予想	対前連結 会計年度 増減率 (通期)
売上高	32,699	68,109	41,000	84,000	23.3%
営業利益	1,005	2,872	2,080	4,310	50.1%
経常利益	1,087	3,190	2,310	4,700	47.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	683	2,146	1,590	3,210	49.6%

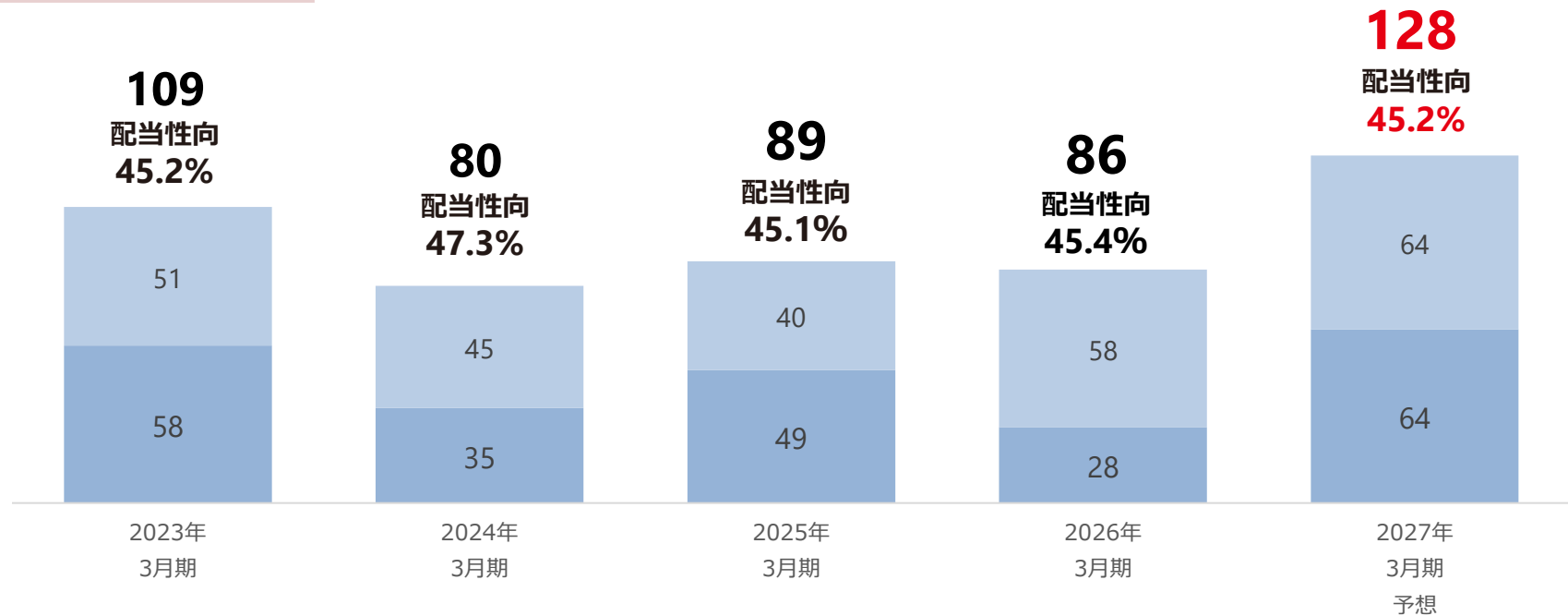
株主還元策（配当実績と予想）

2027年3月期 配当予想

配当方針

- ・通期配当性向45%以上
 - ・年間最低配当額80円
- 原則、いずれか高い金額を配当額とする。

(単位：円)



下段 ■ が中間配当、上段 ■ が期末配当を示す。

3. 中期経営計画達成に向けた取り組みと進捗状況

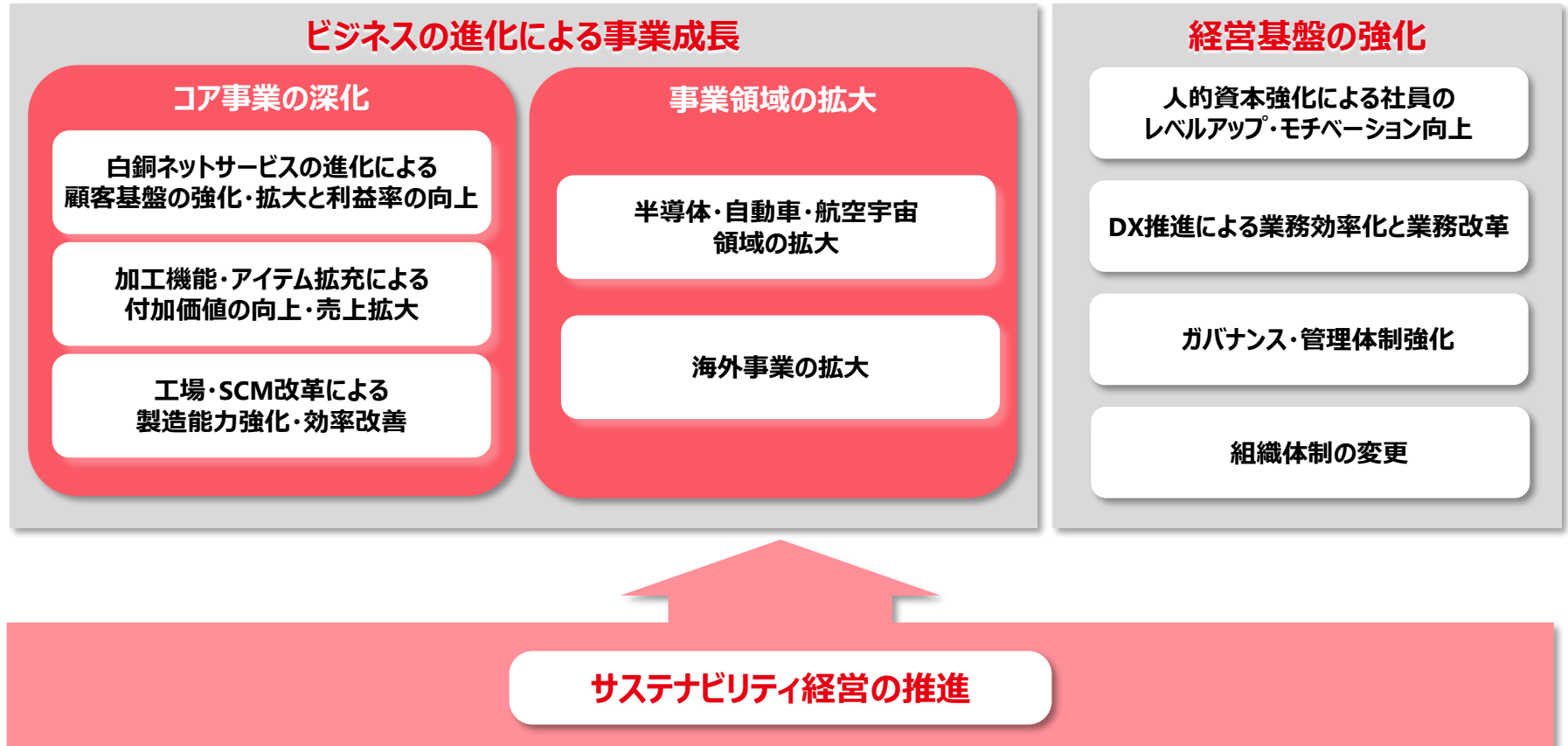
中期経営計画1年目（2026年3月期）業績の振り返り

- 主力の半導体製造装置業界において、生成AI関連以外の需要回復遅れにより設備投資計画の見直しがあったことなどから販売量が減少、第1四半期に業績予想を下方修正。
- 一方、期中に実施したコスト上昇分の適切な価格転嫁、および、その他施策の実施効果も利益改善に寄与し第3四半期に業績予想を上方修正した。
- 中期経営計画の目標値に未達成だが、3か年計画は修正せず達成を目指す。

	2026年3月期		達成状況
	中期経営計画 目標値	実績値	
売上高 (百万円)	75,800	68,109	89.9%
経常利益	3,500	3,190	91.2%
ROIC	9.0%	7.6%	△1.4pt
営業CF	3,700	4,493	121.4%
海外向け売上高比率	15.6%	16.2%	+0.6pt
配当性向	45%	45%	-
一株あたり配当金額	94円	86円	△8円

中期経営計画の重点戦略施策

顧客満足度向上をベースにしたコア事業の深化・事業領域の拡大と、DXや組織体制強化を主とした経営基盤の強化により、持続的成長企業を目指す。



中期経営計画1年目（2026年3月期）施策の振り返り

	重点戦略方針	2026年3月期の主な実施内容
コア事業の進化	白銅ネットサービスの進化による顧客基盤の強化・拡大と利益率の向上	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 図面加工品見積り・注文機能の拡充（「描いて見積り・注文」「DATAで見積り・注文」）
	加工機能・アイテム拡充による付加価値の向上・売上拡大	<ul style="list-style-type: none"> ➢ アイテム拡充（2025年3月末155,200アイテム⇒2026年3月末270,200アイテム）
	工場・SCM改革による製造能力強化・効率改善	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 埼玉第二工場稼働開始(2026年1月) ➢ 2台目のレーザー加工機導入
事業領域の拡大	半導体・自動車・航空宇宙領域の拡大	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 半導体：従来あまり販売ができていなかった装置や部品のPR活動実施 ➢ 自動車：薄板・コイル材×レーザー加工品のPR ➢ 航空宇宙：航空・宇宙規格材料の新商品導入
	海外事業の拡大	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 新たに米国中西部を拠点とするパトリオット・メタル社へ出資 ➢ インドでセールスパートナー1社と覚書を締結済み ➢ ベトナムの出資先でのECパッケージ導入準備を進行中。タイ、上海、WCASは導入済み。 ➢ マレーシアやインドネシアの代理店での導入も検討中。 ➢ その他、韓国・台湾・インド・フィリピンなどにもECパッケージによる販売を計画中。
経営基盤の強化	人的資本強化による社員のレベルアップ・モチベーション向上	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 「健康経営優良法人」の認定 ➢ 医療保険および長期障害所得補償保険の法人加入 ➢ 「がん対策推進企業アクション」への登録
	DX推進による業務効率化と業務改革	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 描いて見積り・注文、DATAで見見積り・注文サービスがIT奨励賞を受賞
	ガバナンス・管理体制強化	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 統合報告書開示
組織体制の変更		<ul style="list-style-type: none"> ➢ 海外営業本部設置による営業機能強化 ➢ マーケティング戦略本部設置によるマーケティング機能強化
		<ul style="list-style-type: none"> ➢ 2030年度のCO₂排出量削減目標の変更（2020年度比42%削減 ⇒ 90%削減） ➢ 寄付実施に対し「内閣府紺綬褒章」を受賞 ➢ ECO商品ラインナップ拡充 ➢ サプライヤーとのグリーン調達ガイドライン締結 ➢ 人権デューデリジェンスへの取り組み
サステナビリティ経営の推進		

重点戦略の実施状況

(1) 白銅ネットサービスの進化による顧客基盤の強化・拡大と利益率の向上

当社標準在庫品
約**5,800**アイテム
+
他社在庫品(取寄せ)
約**264,000**アイテム

※2026年3月末時点

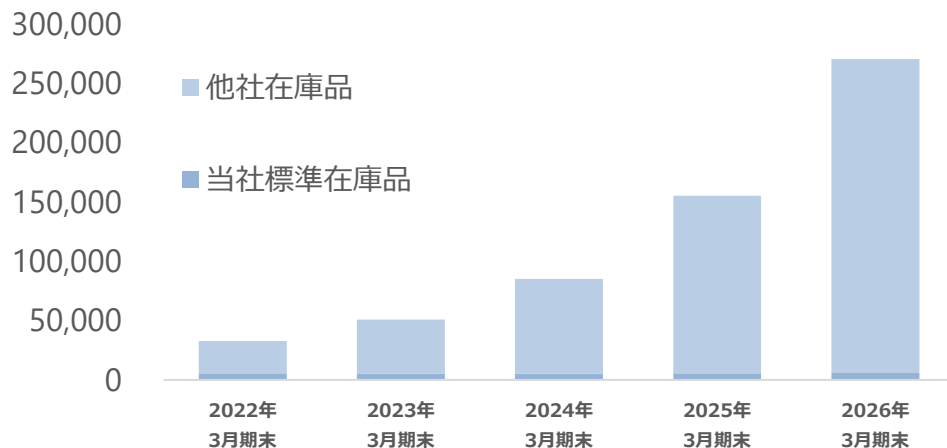
ご登録企業社数
約**15,000**社様
ご登録ユーザー様数
約**31,000**名様

※CSネットサービスの登録件数を含む
※2026年3月末時点

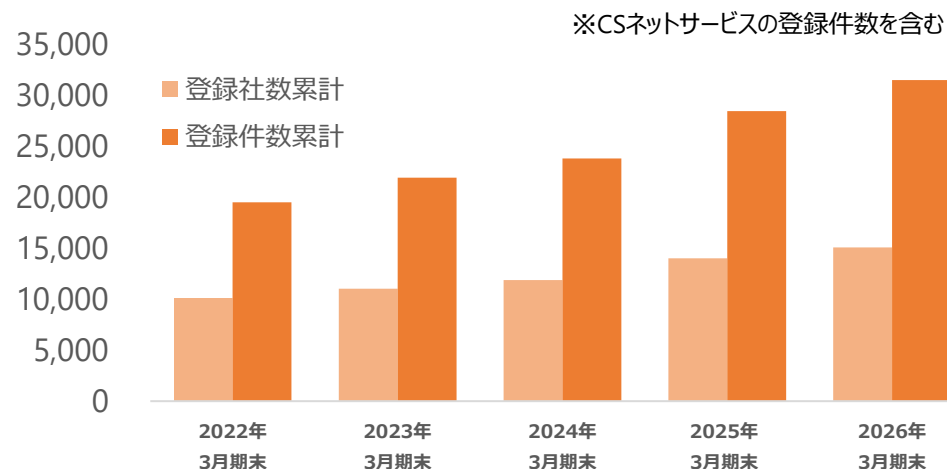
図面加工品にも対応
「金属3Dプリンター造形
見積り・注文」
「DATAで見積り・注文」
「描いて見積り・注文」
「材料取りアシスト」



【白銅ネットサービス ご利用可能アイテム数】



【白銅ネットサービス ご利用登録社数推移（累計）】



重点戦略の実施状況

(2) 成長領域の拡大



専門部署による業界の集約

半導体関連の販売先を専門部署に集約し、業界ナレッジを蓄積する仕組みを構築



新規顧客獲得

金属3Dプリンターを契機に自動車関連の新規顧客を獲得し、他商材の拡販も展開

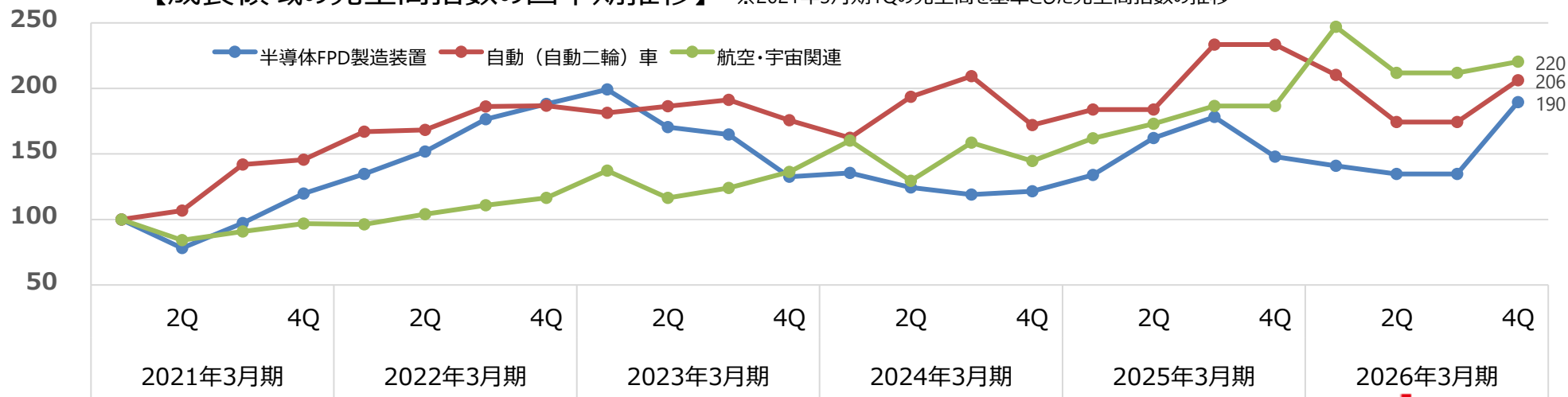


海外材輸入機能強化

WCASと連携し、海外メーカー製航空宇宙規格材の輸入機能を強化

【成長領域の売上高指数の四半期推移】

※2021年3月期1Qの売上高を基準とした売上高指数の推移

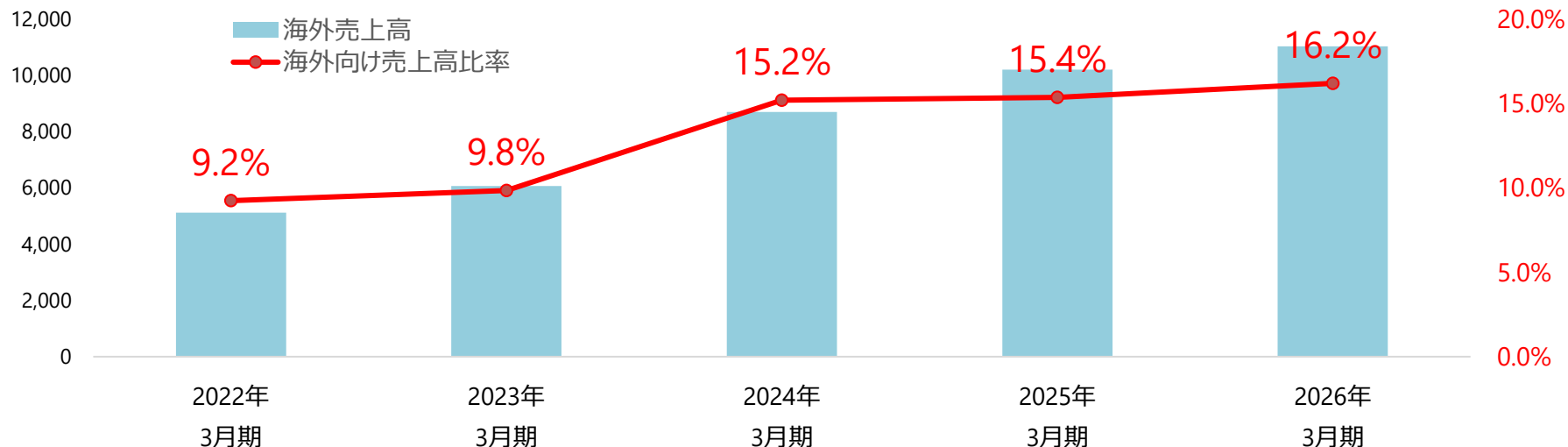


重点戦略の実施状況

(3) 海外事業の拡大

海外事業の売上高と海外売上高比率の推移

(単位：百万円)



※海外売上高は海外子会社売上高と海外子会社以外への本社輸出売上高の合計金額で算出

活動状況

◆ ECパッケージの活用

ベトナムの出資先でのECパッケージ導入準備を進行中。タイ、上海、WCASは導入済み。

マレーシアやインドネシアの代理店での導入も検討中。

その他、韓国・台湾・インド・フィリピンなどにもECパッケージによる販売を計画中。

◆ 事業の拡大

インドでセールスパートナー1社と契約を締結し、市場調査を開始。

その他、韓国・台湾・フィリピン等での販売も進めている。

ご清聴ありがとうございました

■白銅公式SNSアカウントについて

弊社では、YouTube、Instagramの公式アカウントを開設し、商品紹介や展示会の出展案内などのお役立ち情報を定期的に発信しております。

右記のQRコードから、是非、お友だち追加をお願いします！

■本資料における注意事項

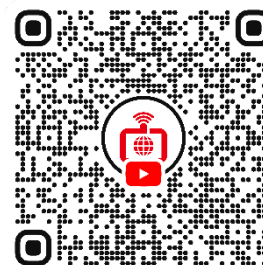
この資料には、2026年5月現在の将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれています。世界経済・競争状況等に関わるリスクや不安定要因により実際の業績が記載の数値と大幅に異なる可能性があります。

■お問合せ先

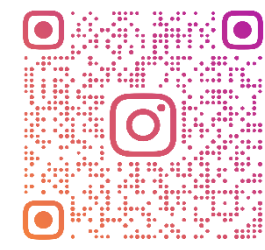
白銅株式会社 経営企画課

メールアドレス：hkdkeiki@hakudo.co.jp

ホームページ：www.hakudo.co.jp



YouTube



HAKUDO.CORPORATION

Instagram